



TITLE:

京大広報 No. 229

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 229. 京大広報 1982, 229: 199-204

ISSUE DATE:

1982-02-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209457>

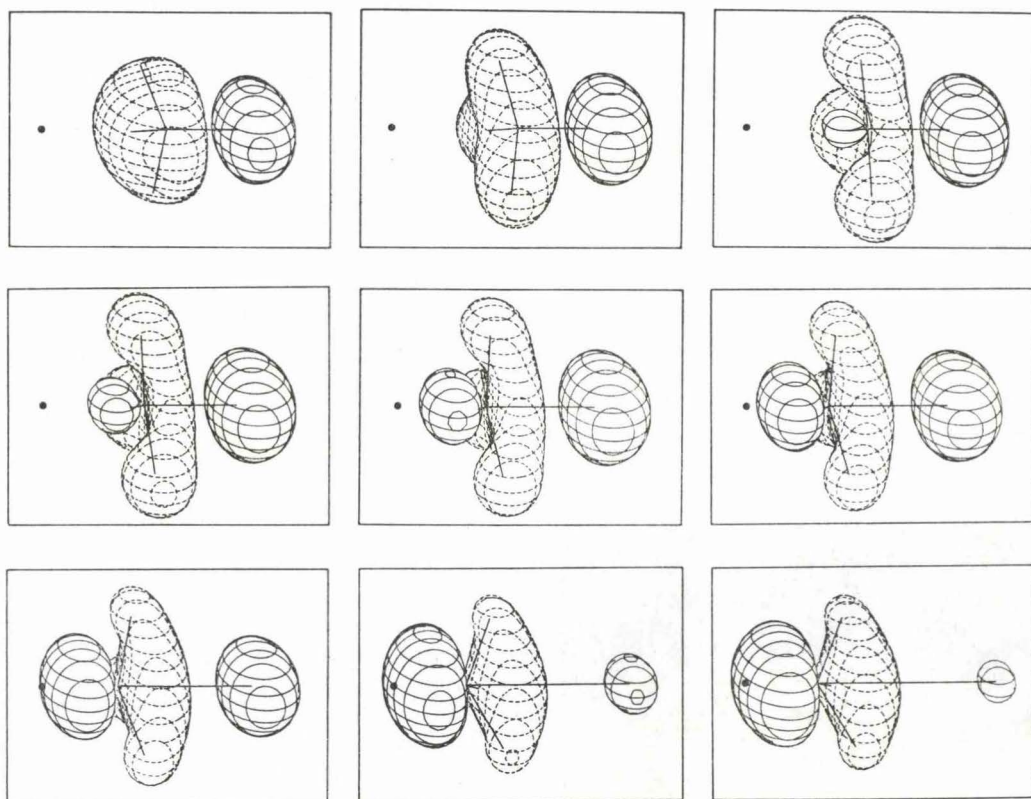
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 229

京都大学広報委員会



水素アニオンと相互作用するメタンの相互作用分子軌道の反応経路に沿った変形
 (福井謙一教授ノーベル化学賞受賞記念講演会における、同教授の講演「化学反応
 はなぜ起るか」において、説明に使用されたスライド)―関連記事本文201ページ―

目 次

福井三郎教授がフランス政府の教育功労章を受章…	200
昭和57年度入学者選抜学力試験の実施計画……………	200
農学部・亜熱帯植物実験所実習宿泊施設が完成…………	200
結核胸部疾患研究所学術講演会……………	201
防災研究所研究発表講演会……………	201
防災研究所創立30周年記念講演会「地震と風水害」…	201
福井謙一教授ノーベル化学賞受賞記念講演会…………	201

<紹介>

経済研究所

―マクロ計量経済モデル・プロジェクト………… 202

計報・日誌…………… 203

<随想>

つまらない講義……………名誉教授 柿崎祐一… 204

＜大学の動き＞

福井三郎教授がフランス政府の
教育功労章を受章

本学工学部福井三郎教授に対して、フランス政府から教育功労章（l'Ordre des Palmes Académiques）シュバリエ級が授与され、その授与式が1月29日、関西日仏学館で行なわれた。

この教育功労章は、教育や学術研究の面で、フランスとの文化交流に功績のあった外国人に授与される勲章である。

昭和57年度入学者選抜
学力試験の実施計画

昭和57年度入学試験については、入学試験委員会を中心に実施計画の検討が進められてきたが、その概要は次のとおりである。

1 2段階選抜

今年度実施する学部は、経済学部が取り止めたことに伴い、法・理学部の2学部が実施することになった。選抜の基準は、昨年度と同様、共通第1次学力試験の総得点が1,000点満点中、400点以上の者を第1段階選抜合格者とする。



志願票の受付け（2月9日工学部）

＜部局の動き＞

農学部・亜熱帯植物実験所
実習宿泊施設が完成

このたび農学部附属亜熱帯植物実験所に実習宿泊施設（鉄筋コンクリート造2階建延463㎡）が完成し、1月29日（金）、深海 浩農学部長をはじめ学内外から関係者約30名の出席を得て竣工披露

2 第2次学力検査の期日及び教科等

月 日	教 科	学 部	時 間
3月4日 (木)	国 語	理 学 部	午前9時30分～11時
		文・教育・法・経済学部	午前9時30分～11時30分
	数 学	文・教育・法・経済学部	午後1時～3時
		理・医・薬・工・農学部	午後1時～3時30分
3月5日 (金)	外 国 語	全 学 部	午前9時30分～11時30分
	理 科	理 学 部	午後1時～3時
		医・薬・工・農学部	午後1時～3時30分

3 募集人員及び入学試験場

学 部	募集人員	試 験 場（予定）
文 学 部	200	名 教 養 部
教 育 学 部	50	文 学 部
法 学 部	350	関西文理学院
経 済 学 部	200	法学部・経済学部
理 学 部	281	教 養 部
医 学 部	120	医 学 部
薬 学 部	80	薬 学 部
工 学 部	945	工 学 部
農 学 部	300	農 学 部
	(計 2,526)	

（備考） 法学部募集人員350名の内には、特別選抜により合格を決定した15名が含まれている。

4 志願票の受付け

志願票の受理は、2月9日（火）から2月15日（月）までの間とし、各学部において行なわれる。

5 合格者の発表

最終の合格者発表は、3月18日である。

なお、2段階選抜を実施する学部では、2月20日に第1段階選抜の合格者を発表する。

式を挙行した。亜熱帯植物実験所は紀伊半島の南端串本町の東約1.5kmの海峡をへだてて位置する大島にあり、常緑広葉樹林におおわれている。昭和15年に発足して以来、柑橘、椿、ヤシ、その他熱帯・亜熱帯植物の導入試作が行なわれてきた。近年、実習ばかりでなく研修、見学の場として学内外からの利用者が増えている。

（農学部）

結核胸部疾患研究所学術講演会

結核胸部疾患研究所では、1月30日(土)京大会館において、午後1時から5時40分まで、下記のとおり昭和56年度学術講演会を開催した。

結核菌以外の抗酸菌による感染症

一主な菌種の同定と薬剤感受性— 久世文幸
呼吸器の感染防御機構に関する研究 門 政男
慢性呼吸不全にみられる睡眠時呼吸

異常の研究 大井元晴
肺腺癌亜型分類と臨床 玉田二郎
血液細胞の増殖因子 前田道之
自己免疫寛容：ヘルパーT細胞寛容
の誘導と破綻のメカニズム 細野正道
老化促進モデルマウス(SAM)の
開発 竹田俊男

(結核胸部疾患研究所)

防災研究所研究発表講演会

防災研究所では、2月2日(火)と3日(水)の両日にわたり、三つの会場を使って昭和56年度研究発表講演会を開催した。

本年度は特別講演に引続き、第1会場(火山・地震・地盤災害関係)、第2会場(建造物・地すべり・気象災害・水資源関係)、第3会場(河川・海岸・砂防・地形災害関係)にわかれて118題の研究発表が行なわれた。

なお、特別講演は下記のとおりであった。

竜巻渦の室内実験 文字信貴
沖積地河川の流路変動に関する
水理学的研究の動向 村本嘉雄
実験地形学の最近の動向と災害
科学との関連性 奥田節夫
(防災研究所)

防災研究所創立30周年記念 講演会「地震と風水害」

防災研究所では、2月5日(金)午後1時から4時30分まで大阪・新朝日ビルSABホールおよび2月6日(土)午後1時から4時まで京大会館において公開講演会「地震と風水害」を開催した。

本研究所在創立30周年を迎えたのを記念して、我が国における防災の研究をさらに発展させるた

め、世界の権威者を本研究所に招き、それぞれの研究分野毎にセミナーを行なったが、この講演会はその機会に開催したものであり、2日間で約400名の聴講者があった。

講演題目と講師は次のとおりであった。

(2月5日)

アメリカにおける地震予知の研究

カール・キスリンガー(米国 Colorado 大学環境科学研究所長・教授)

台風警報とその備え

ロバート・H・シン普森(米国 Virginia 大学環境科学科教授)

オランダにおける水害の研究

ヘルマン・ブロイザース(オランダ国立 Delft 水理研究所研究企画官)

(2月6日)

中国の気候地形学と山地災害

丁 錫 祉(中国科学院成都地理研究所長・教授)

中国における地盤災害

劉 頴(中国科学院工程力学研究所教授)
(防災研究所)

福井謙一教授ノーベル化学賞 受賞記念講演会

工学部では、2月8日(月)午後1時から3時10分まで、法経第四教室において、福井謙一工学部教授ノーベル化学賞受賞記念講演会を開催した。約1,200名の来聴者がおり法経第二教室にもテレビ中継を行なった。

講演会は、佐藤 俊工学部長のあいさつ、児玉信次郎本学名誉教授の講演「技術における科学」に引続き、福井謙一教授が「化学反応はなぜ起こるか」と題して記念講演を行なった。



(工学部)

<紹 介>

経 済 研 究 所

—マクロ計量経済モデル・プロジェクト—

経済研究所は、昭和37年に、「産業経済に関する理論的・実証的研究を総合的に行う」ことを目的として設立され、当初2研究部門で発足した。設立20周年を迎える本年に至るまで、日本経済の国際化、環境と地域開発問題などへの関心の深化に伴って研究部門の拡大は順調に進み（現在9研究部門があり、うち1研究部門は客員研究部門である）、日本経済に関する実証的研究とそれを支える問題意識に富んだ理論的研究のために、すぐれた研究陣を擁して国際的に評価の高い研究が進められている。以下では、これらの研究の一つである日本経済の景気変動と予測・政策分析に使っているマクロ計量経済モデル（以下ではマクロ・モデルと略称）のプロジェクトを紹介する。

マクロ・モデルは、日本経済の成長と景気変動を動学的連立方程式体系によって表現し、これをシミュレートしようとするものである。ケインズ経済学の展開（1940年代初頭から最近のネオマネタリズムの批判的摂取に至るまでの）を背景に、欧米および日本経済に関する実証的研究の業績の上に作り上げられたものであり、その理論的基礎は堅固である。しかしながら、70年代以降の現実の経済の展開すなわち変動相場制への移行、エネルギー価格の急上昇などによって鋭くかつ厳しい挑戦を受けている。

モデルの計測・予測に用いられる統計データは、国民所得統計を中心とする四半期時系列であり、本学大型計算機センターの共用ファイル内のデータバンクにおさめられている。統計データのupdating, モデルの推定作業およびシミュレーション分析のコントロールが経常的に行なわれている（本研究所には、リモート・パッチ・ステーションならびに1200ボアの専用回線端末が設置され、マクロ・モデル・プロジェクトによる使用頻度がきわめて高い）。

マクロ・モデルによる景気変動や政策分析は、inputとしての日本経済の環境（ないしは外生的）要因や政策の変化が時間的経過とともに経済全体にもたらす変化をとらえようとするものである。たとえば米国経済の停滞がわが国の経済活動

水準、物価、雇用と失業、国際収支と円レートなどの諸指標におよぼす影響や、石油価格の急上昇がもたらすインフレと国内景気後退に対処すべき経済政策の評価、あるいは中期的な経済成長の経路の選択および評価など、応用面はきわめて多岐にわたっている。

昭和50年以降、こうした応用的研究の一環として計量経済モデルを基礎においた「日本経済の景気分析と予測」プロジェクトを編成して、その成果を継続的に年2回の頻度でいわゆる「京大モデル予測」として公表し、また、随時経済政策の方向に関する批判や政策提言を行なっている。ごく最近に行なった作業としては、昨年12月17日発表の「景気分析と予測」があり（次表は、世界貿易量（工業製品）の拡大率は昭和56年度を下回る、名目公的固定資本形成は伸び率ゼロ、等の諸前提に基づく主要な経済指標についての56年度実績見込みと57年度予測をまとめたもの）、主なポイントはつぎの通りである。

	昭和55年 度 実 績	56年度実 績見込み	57年度 予 測
民 間 消 費 支 出	101.32 0.26	102.57 1.23	106.29 3.62
政 府 最 終 消 費 支 出	17.97 2.64	18.32 1.98	18.35 0.17
民 間 住 宅 投 資	10.85 -9.99	11.17 2.96	11.56 3.54
民 間 企 業 設 備 投 資	31.95 5.73	32.29 1.07	33.44 3.55
公 的 総 固 定 資 本 形 成	17.85 -1.20	18.23 2.14	17.78 -2.48
民間企業在庫品増加	1.80 -3.99	0.90 -49.72	1.16 28.66
財貨・サービスの輸出と 海外からの要素所得	34.72 16.56	40.98 18.01	42.74 4.30
財貨・サービスの輸入と 海外への要素所得	26.29 -3.89	27.99 6.47	28.71 2.60
国 内 総 支 出	190.34 3.58	196.30 3.13	202.85 3.33
国 民 総 支 出	189.94 3.64	196.42 3.41	202.58 3.14
国 内 民 間 需 要	146.62 0.49	146.93 0.21	152.45 3.76
公 的 支 出	35.50 0.03	36.49 2.80	36.14 -0.97
経 常 海 外 余 剰	8.44 246.08	12.99 53.98	14.02 7.95
鉱工業生産指数 (昭和50年=100)	142.72 4.64	147.22 3.15	154.42 4.89

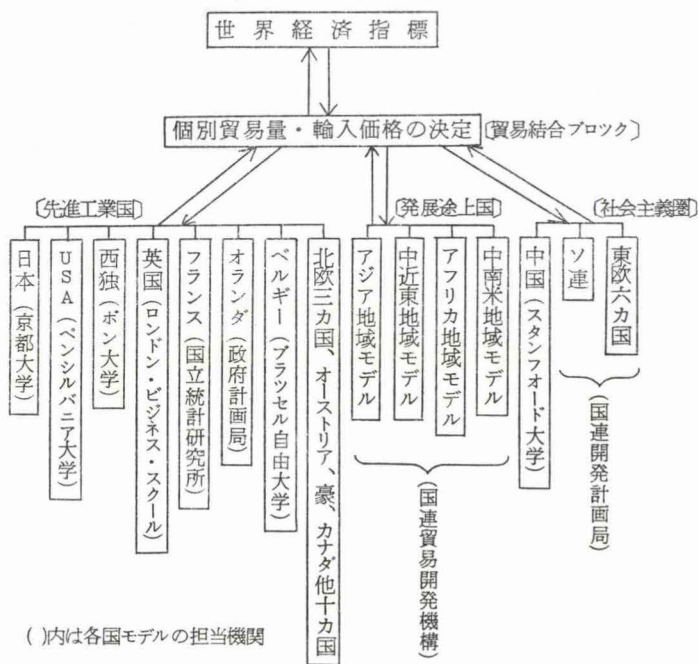
注) 上段は昭和50年基準実質額（単位は兆円）
下段は対前年度比（％）

1) 57年度の日本経済は、政府見通し(実質経済成長率5.2%)とは異なり、国際的には世界不況、国内的には財政再建のための超緊縮財政によるデフレ効果によって、3%程度の低い実質成長率に終る見通しである。2) この結果、輸出への圧力が高まり不況下の欧米諸国との通商摩擦が一段と強まる。3) 国内民間需要のなかでも、住宅投資は構造的な停滞局面にあり、個人消費は個人可処分所得の伸びが鈍いために拡大の見込みはあまりない。4) 内外の要請によって経済政策の見直しが行なわれることとなる。

京大マクロ・モデルは、図に示すように、他の国々の同種のマクロ・モデルと「貿易結合ブロック」を通してリンクされ、世界経済モデルとして、世界の景気変動や各国国際収支の予測などに用いられている。結合のための国際的組織は Project LINK とよばれ、アメリカ合衆国ペンシルバニア大学にセンターをおいている(主宰者は L.R. クライン教授—1980年ノーベル経済学受賞)。このプロジェクトを通して、

世界経済の動向にかんする情報が京大モデルに input され、日本経済のダイナミックスが、世界経済モデルにフィード・バックされるわけである。

(経済研究所)



LINK世界経済モデルの概念図

訃報

西田太一郎 (本学名誉教授・法学博士)

2月3日逝去, 71歳。本学文学部卒。昭和32年本学教

養部教授就任, 同49年退官。その間評議員(昭和42年～43年), 教養部長(昭和44年～45年)を歴任。専門は中国思想史。

日誌

(1982年1月1日～1月31日)

1月4日 新年名刺交換会

7日 安全委員会

16日～17日

共通第1次学力試験

19日 発明審議委員会

20日 国際交流委員会

23日～24日

共通第1次学力試験追試験

26日 評議会

福井謙一教授ノーベル化学賞受賞記念講演会

27日 学位授与式

30日 結核胸部疾患研究所学術講演会

